

9月9日の明け方、台風15号が首都圏を直撃し、関東地方に甚大な被害をもたらしました。新聞各紙が「最強台風」、「過去最強クラスの台風」と報じるように、中心気圧960ヘクトパスカルの勢力で関東地方に上陸し、各地で最大瞬間風速の観測史上1位を更新しました。送電線の鉄塔の倒壊や家屋損壊の映像は、その風の威力をまざまざと感じさせるものです。

千葉県内では大規模停電が続き、照明はもとより断水や通信・情報の途絶、食料品の不足、ごみ収集のストップなど、様々な市民生活への影響が生じています。特に猛暑の中でのエアコンが使えない状況は命に関わる極めて厳しいことと思います。その他、産業面でも甚大な被害が生じています。被害に遭われた方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

これまでも各地において様々な自然災害が発生してきましたが、この度の千葉県の状況からは、家屋に直接的に大きな損害を被っていない場合であっても、大規模停電などライフラインの長期間のストップが、いかに日常生活に多大な影響を及ぼすものであるかを改めて知ることとなりました。

さて、生涯学習プラザでは、生涯学習財団と市民アカデミーが協同して、8月29日に大地震の発生を想定した避難訓練、及び交通機関の途絶による「帰宅困難者一時滞在受入訓練」を実施しました。施設利用者の皆様や職員の生命は絶対に守らなければなりませんし、そのためには日頃からの心構えと準備が重要であることは言うまでもありません。

安全には「絶対」はありませんが、最悪の事態を想定しながら、的確な情報収集と避難・回避行動により、「想定外」を少しでも少なくすることが減災の心得であると思います。

その意味では、台風15号の襲来に合わせた鉄道の「計画運休」も減災対策の一つと言えるでしょう。当初、午前8時頃の運転再開が報じられていましたが、路線によっては安全確認等に時間を要し、かなり再開が遅れたところもありました。私も動いている交通機関を巡り、2時間半近くかけてようやく生涯学習プラザに到着することができました。交通機関のものすごい混雑は、更にけが人、病人が出ることも心配される事態であったと思います。

今後も「最強台風」の接近、上陸は当然予想されることです。その際、「計画運休」が行われる場合もあるでしょうが、災害が発生する(予想される)事態に屋外で行動することについて、「自分の身の安全を守るには、自らが主体的に考えなければならない」ことを、改めて感じさせられました。また、危険回避のための個々人の判断・行動が許容される社会、職場でなければ、減災にはつながらないと思いました。